

# 萌芽枝の数を減らす「もやかき」による、 地上部と地下部の良好なバランス

## 【背景・目的・成果】

人家裏山等の高木性広葉樹危険木を伐採した後に萌芽させ、**樹高が低い林として管理する方法（低林管理 図1）**において、その後の管理の違いが樹木の根系に与える影響はわかりません。

そこで、伝統的管理法の一つである**萌芽再生時に幹の数を減らす管理（もやかき 図2）**が根系に及ぼす影響を知るために、萌芽再生後の幹の数が1本の個体と複数本の個体とで、**地上部と地下部の状況や倒れにくさ**が異なるかどうかを明らかにしました。

その結果、幹の数が複数本よりも**1本の個体の方が、地上部と地下部のバランスが取れて（図2）倒れにくいことにより斜面を安定させる**ことがわかりました。

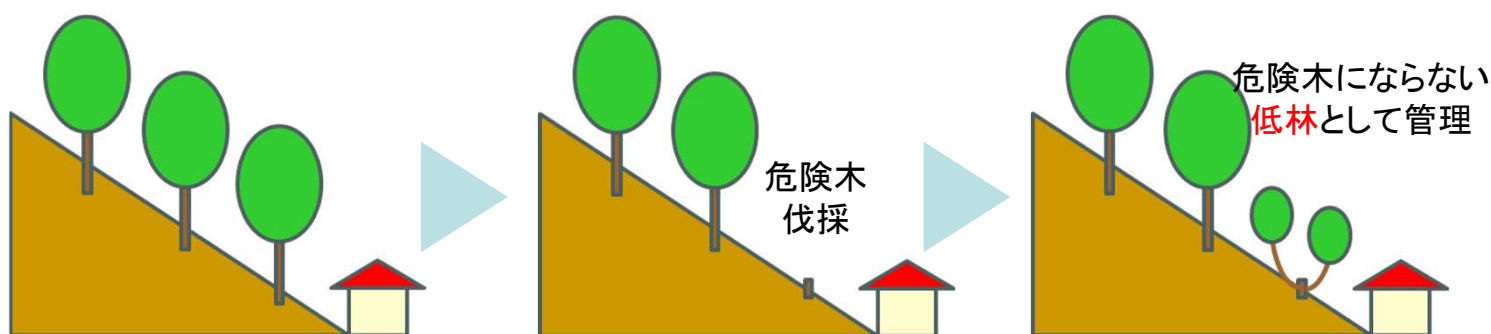


図1 人家裏山の低林管理



Yamase et al. 2024を改変

図2 萌芽再生個体のもやかきと地上部・地下部のバランス

この成果は、兵庫県立大・名古屋大・福知山公立大・東京大との共同研究(科研費JP20H03040)で得られたものです

## 【技術の活用】

里山防災林整備などの「**災害に強い森づくり**」のための技術として活用します。



兵庫県  
Hyogo Prefecture

兵庫県立農林水産技術総合センター  
森林林業技術センター

25-08

研究成果紹介  
動画サイト

